

倶多楽の火山活動解説資料（平成28年2月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

4日18時から6日にかけて倶多楽の西側を震源とする地震が増加しました。最大の地震は4日18時06分のマグニチュード2.5（暫定値）でした。その他の観測データに特段の変化はみられず、噴火に至る兆候は認められませんでした。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図1、図3-①）

日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上50m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

・地震及び微動の発生状況（図2-②、図3-①、図4）

4日18時から6日にかけて倶多楽の西側を震源とする地震が増加しました。最大の地震は4日18時06分のマグニチュード2.5（暫定値）でした。地震増加時にその他の観測データに特段の変化はなく、7日以降、火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図2-③、図3-②）

GNSS連続観測¹⁾では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。



図1 倶多楽 南南西側から見た日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況
(2月12日、414m山遠望カメラによる)

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院及び北海道大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用しています (承認番号 平26情使、第578号)。

次回の火山活動解説資料（平成28年3月分）は平成28年4月8日に発表する予定です。

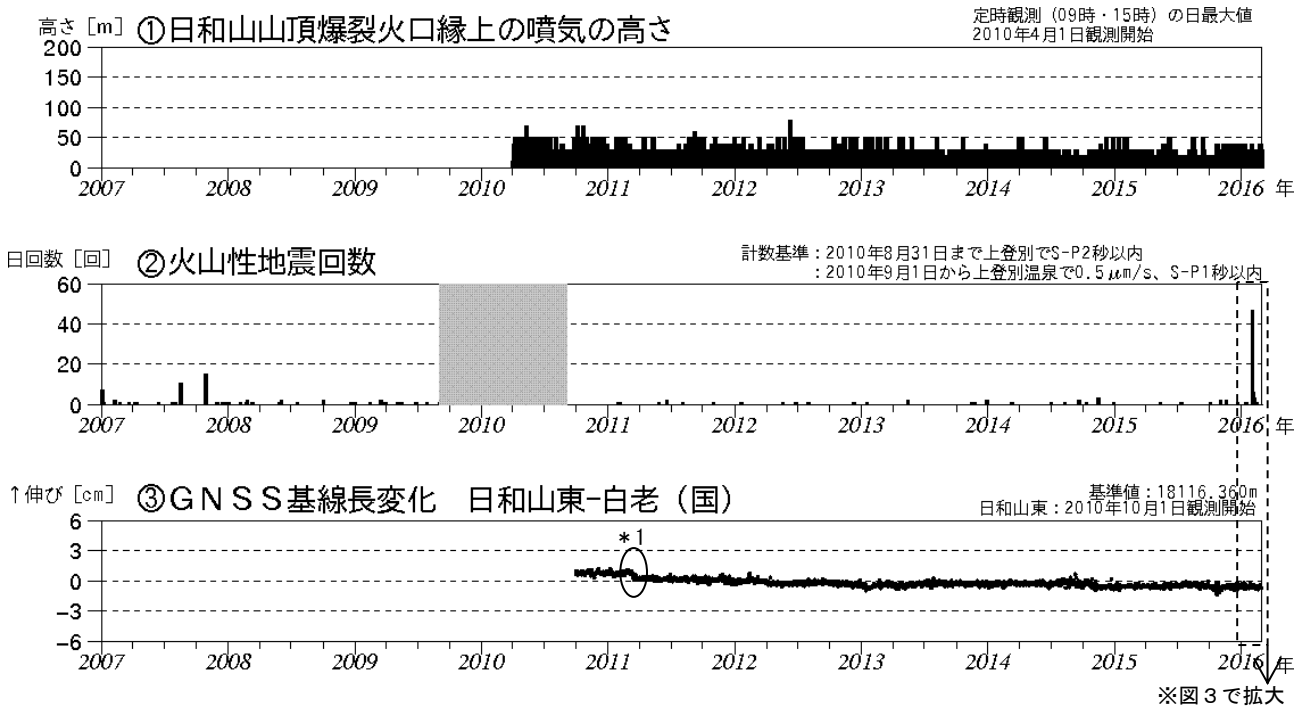


図 2 倶多楽 火山活動経過図 (2007年 1 月～2016年 2 月)

- ・ ②の灰色の期間は機器障害による欠測を示します
- ・ ③のGNSS基線は右配置図の基線に対応しています
- ・ (国) : 国土地理院

* 1 : 楢円内の変動は、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響によるものであり、火山活動によるものではありません

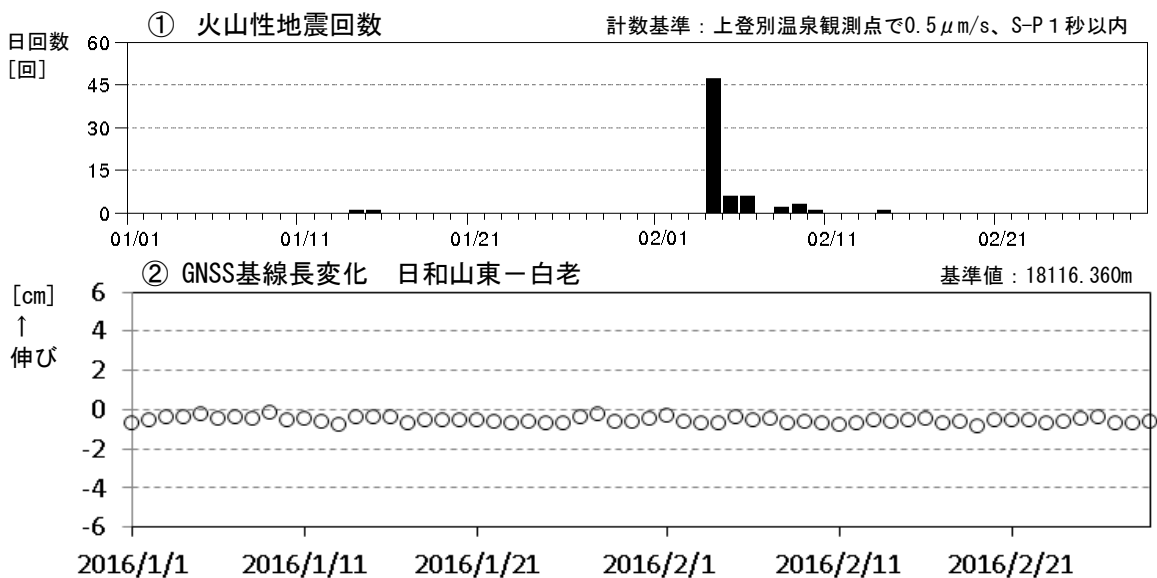
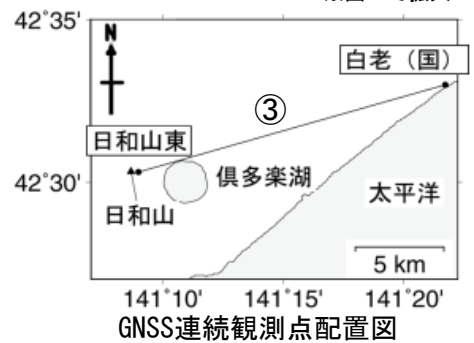


図 3 倶多楽 日別地震回数とGNSS連続観測による基線長変化拡大図 (2016年 1 月～2016年 2 月)

- ・ ②のGNSS基線は図 2 の配置図の基線に対応しています
- ・ (国) : 国土地理院

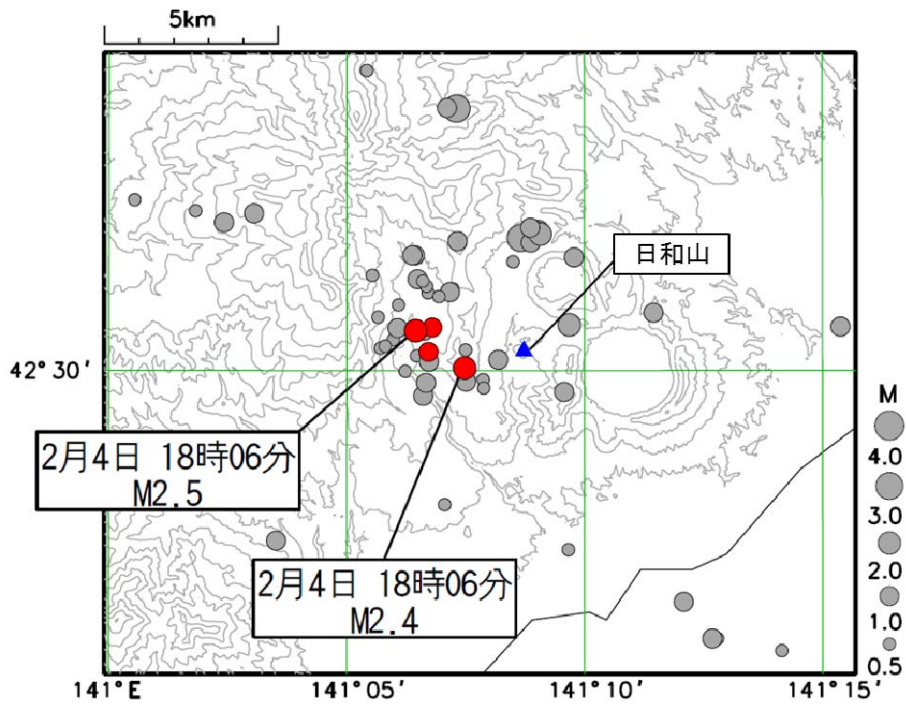


図4 倶多楽 広域地震観測網による山体周辺の地震活動
 (1997年10月1日～2016年2月29日、 $M \geq 0.5$ 、深さ30km以浅)
 ・2月に発生した地震を赤いシンボルで表示しています

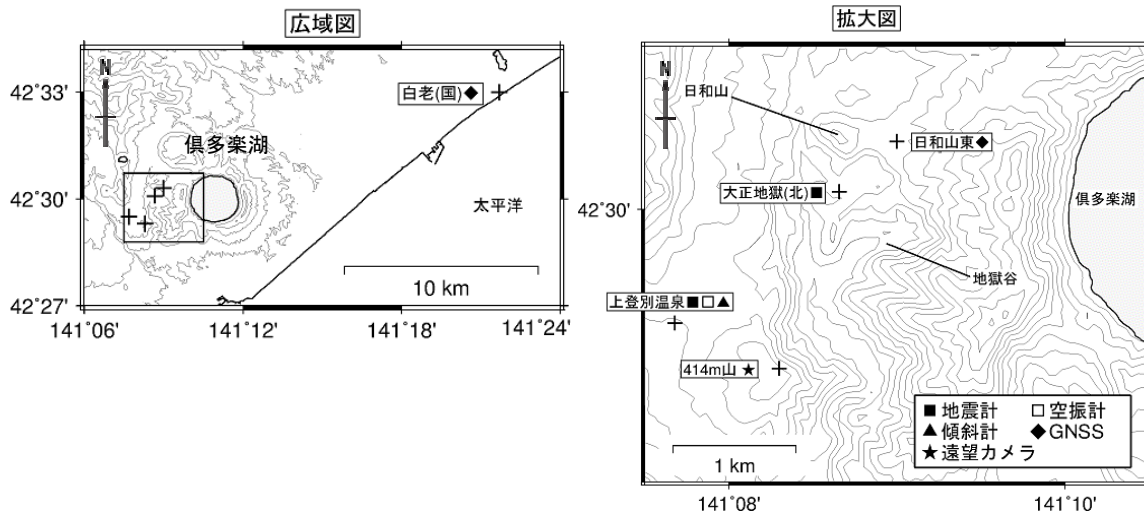


図5 倶多楽 観測点配置図
 広域図内の口は拡大図の範囲を示します
 +印は観測点の位置を示します
 気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています
 (国) : 国土地理院
 (北) : 北海道大学